

育 教 の 兒 幼

月 九 年 二 十 和 昭

世界教育會議

—— 就學前及幼稚園部 ——

倉 橋 惣 三

待望の世界教育會議は、豫定の通りの日程で、期待の通りの成功裡に行はれた。東京帝國大學の會場に、東京女子高等師範學校の展覽會場に、その他各種會合に、招待に、催しものに、外國側一千餘名、日本側二千餘名、相集り、相語り、相論じ、相笑ひ、相親んだ。

部會に於ける就學前及幼稚園部は帝大十八番教室を會場として、八月二、三兩日行はれ、議長は、英國のミス・オーウエンが來會を待つてゐたが、カナダのミス・フリナ・クルーズ (Miss Frinna Kruse) が代つた。女史はカナダのマクドナルド・カレッジの教授で、カナダ教員聯合會を代表する人、穩かなもの靜かな上品な人である。祕書はアメリカのコロンビヤ大學幼稚部のミス・エヂス・ユー・コナード (Miss Edith U. Conard) で、快活潑刺コロンビヤ大學型のテキサキミ事務的手腕のある人である。出席の會員は日本人百三十八名、外國人七十一名。その内アメリカ三十六名、印度十六名、カナ

ダ十名、ヒリッピン三名、滿洲二名、中華民國二名、記載不明二名といふ割合である。

第一日は講演、第二日は報告及討議會といふプログラムで、用語はすべて英語の規定であるが、日本人多数の會合であるから、簡單なる要領紹介を日本語で行つた。

四日と五日に家庭及び學校部の部會が同じ會場に於て行はれ、七日には就學前及幼稚園部と此の部との聯合會が二十五番教室で開かれた。その時の議長は家庭及び學校部の議長ミセス・ヂエー・ケー・ペッチンギル(Mrs. J. K. Pettingill)であつた。女史はアメリカのウエーン大學教授で、全米兩親教師協會の會長として令名ある人である。高雅優美、社交的な快活な人で、議場に對する手腕は實に驚嘆すべきものがあつた。祕書としては青山女學院のアレキサンダー女史が之れを助けた。

聯合會としては、その一日であつたが、實は兩部の性質上初めから同一の出席會員も多く、殊に日本側準備委員諸君は、初めから相談して協力せられたから、實際上に於ては五日間に涉り、幼兒と母と、家庭と幼稚園と學校とに就て語りあつたといつてよい。そして僅に五日間であり、相當盛りあげた中味であり、殊に、言語の通じ難い場合も少なくなかつたに拘はらず、一同は非常の満足をして、和氣を以て會を終始した。外國人側の満足も充分であつて、兩部の聯絡委員を兼ねて、外國側と交渉するこゝの多かつた私の耳には、たえず、その満足の聲が聞えてゐた。

それにしても、こゝに到るまでの各方面の努力、わけても私としては兩部の準備委員諸君の久しき努力と當日の御精勵とに就て深く感謝せざるを得ない。

展覽會の方はこれ亦一般の好評裡に、幼稚園、家庭教育等の部は、附屬幼稚園を會場として、性質上、極めて和やか

な、あかるい世界を展開して、観覧者の心を、知識のみならず感情にまで涵らせた。此の展覽會に就て、各方面の有益なる出品と共に、殊に、三月、五月の雛人形を初め、多大の犠牲的好意出品をして下さつた山田徳兵衛氏に感謝せなければならぬ。

幼稚園の庭園は、泉水のしつらへよろしく、憩の庭ミなつて、人々は風鈴の鳴る簾屋根の下に、冷い飲物を饗せられながら、憩の庭を楽しんだ。

尙ほ記し添へて置きたいことは、六日の午前、外國の希望者五十名程を日本幼稚園協會に於て案内し、日本橋區常盤幼稚園、麴町區番町幼稚園、小石川區私立東京保姆養成所幼稚園、女高師附屬幼稚園を視察の上、正午茗溪會館に於て日本側數十名を加へて簡単な招宴を開き、食卓に於てもくく立つて名のりを擧げる等、極めて懇親した。又、席上、外國の人々銘々へお土産として函入りの押繪羽子板を贈つたが、あの美しい押繪が、あの人々の居間なり、幼稚園なりに飾られて、日本の幼稚園界が、にこやかに記念せられるであらうことは、最もほゝろましい想像である。

(尙ほ公議に於ける詳細は事務局から發表せられる筈で、その際御紹介することにする)